

## 新海誠作品における天候の表現による効果

国語班: 茨木希光、田北祈、金田乃愛、辻林希恵

### Abstract

The purpose of this study is revealing that the effect of the weather centered on “rain” on scene development in the three works of Makoto Shinkai’s :“Your Name”, “Garden of Words” and “5 Centimeters per Second” and deepening our understanding of the contents of Makoto Shinkai’s works. The experiment shows that anxiety of uncertain future is expressed with snow and rain in “Your Name” and “5 Centimeters per Second”, and the joy of a wish of main character coming true is expressed with golden clouds or rain. This study concludes that Makoto Shinkai express negative emotions with rain or snow, and he also connects the joy of a wish coming true with gold and expresses it with weather.

### 要約

本研究の目的は、新海誠の『君の名は。』『言の葉の庭』『秒速5センチメートル』の3作品における「雨」を中心とした天候表現がもたらす場面展開の効果について明らかにし、新海誠作品への内容理解をより深めることである。調査によって『君の名は。』と『秒速5センチメートル』では先の見えない不安を雪や雨で表現しており、『君の名は。』と『言の葉の庭』では、主人公の願いが叶った喜びを金色の雲や雨で表現していることがわかった。従って本研究では、3作品の中で、負の感情が雨や雪で表され、また、願いの叶った喜びが金色と結び付けられて天候で表現されていると結論づけた。

### 1.はじめに

新海誠の作品は主に天気と人の関わりに注目して描かれていることが新海誠本人が語ったインタビューから明らかになっている。本研究では「天気」が人の関わりにどのような影響を与えているかに焦点を当てていく。新海誠作品における特徴的な天候の描写として、特に「雨」が挙げられることから、『君の名は。』、『言の葉の庭』、『秒速5センチメートル』の3作品における「雨」を中心とした天候描写がもたらす場面展開への効果について明らかにし、新海誠作品への内容理解をより深めることを目指す。

### 2.調査手法

三作品を読み、天候に関する表現を抽出し、それに伴う状況や心情を分析して天候による表現の効果を考察する。なお、ここでの天候に関する表現とは天候に伴う音や色も含む。

### 3.結果

まず『秒速5センチメートル』では、明里と会うために貴樹が電車に乗っている際には雪は「無数の白い欠片」であったが、その電車が止まってしまい明里を待たせる時間が長引くとともに「オオオという吹雪」「吹きつける吹雪」と強まっていく雪の様子が描写されている。そして明里と貴樹が小屋の中で夜通し話をしていて、二人は初めてキスをする。その際「僕を捉えた不安はやがて緩やかに溶けていき」とある。その後、「月明かりが差し込んで小屋の中を幻想的な光が満たした」「雪はいつのまにか止んでいた」「明里の後ろの雪原が朝日を浴びて」など、これまでの悪天候から一変して晴れたことがわかる。

次に『君の名は。』では、三葉の住む町を救うために神社を探している際には「灰色の雲」「どしゃ降り雨」などと、雨の描写が強まっていき、目的の神社を見つけると「小降りになった雨」と雨が弱まり、物語が解決に近づく「ちぎれた薄雲が金色に輝きながら」と天候の変化が見られる。

最後に『言の葉の庭』では、雨に対して孝雄は雨に対して「雫がたまらなく可愛い」「ぽちゃぽちゃという可愛い音」という表現が見られる。物語の終盤で二人の思いが通じ合った際には「灰色の土砂降り」から「金色の雨」への天候の描写の変化が見られる。

#### 4.考察

『秒速5センチメートル』については、雪が積もるといふ描写は、貴樹の約束の時間に間に合わない焦ったり、明里を長時間待たせてしまうことへの心苦しさを表しており、雪が貴樹の負の感情の象徴となっていると考えた。二人の再会後、小屋の中で話をしキスをした時に不安のことを溶ける、と表現していることは先述の雪が負の感情の象徴である、という考察を裏付けるものとなる。後に貴樹はこの時のことについて「世界の何もかもが変わってしまった」と語っており、明里は貴樹の気持ちのちだけでなく、世界の捉え方そのものを変えてしまうほどの存在であったのだろう。その後、今まで降っていた雪はやみ、光についての描写が目立つようになる。また明里の名前はあかりと読み、光や灯を連想させる。したがって、明里は貴樹の不安を溶かす光のような存在であると考えた。

『君の名は。』では、滝が三葉を助けるために神社を探している時は、雨の程度が次第に強まっていく。そしてようやく神社を見つけた時には雨は「小降り」になっている。このことから雨の描写は、滝が早く三葉を助けないといけないと焦る気持ちと繋がっていると考えた。そして神社を見つけた後にはこれまでの天候から一変して晴れたことが読み取れ、滝の三葉を助けることができるという希望を晴れや金色で表現している。以上から、滝の気持ちと空模様は重ね合わせて描かれていると考えた。

『言の葉の庭』においては、雨に対して可愛いと表現するのは他の作品には見られない特徴である。作品内で、孝雄が雪野に会うことができるのは雨が降っている日だけであり、二人は教師と生徒という立場であることから表に出せない恋心にお互い心を悩ませていることが描かれている。このことから、孝雄は雪野と雨とを結びつけて考えており、雪野への気持ちを直接伝えられない状況下でも募る恋心を雨に例えて婉曲的に表現しているのだと考えた。また雪野が孝雄と過ごす日を心地よく思っている時にも、二人の思いが通じ合った時にも雨を「金色」や「輝く」と表現している。この表現は、『君の名は。』と同様に物事が解決に向かったことを表現している。このような状況の際に雨がやみ空が晴れると表現するのは他の作家にも見られるが、雨が金色に輝くという表現は新海誠特有のものである。

#### 5.結論

『秒速5センチメートル』では、雪を負の感情を強調する象徴とし、明里がその雪を溶かす光のような存在とすることで明里に会えた貴樹の喜びや安堵を強調する効果があった。

『言の葉の庭』では、年齢差などの事情によってなかなか言葉に出せないそれぞれの心情を天候で遠回しに表現することで、もどかしさや距離感を強調する効果があると考えられる。

『君の名は。』では、金色の雨という表現で希望を感じさせる効果があったが、考察出来る天候表現が少なかったため、作品全体の効果の特徴はあげられなかった。これらのことから、三作品に共通する効果は見られなかった。

三作品だけでは共通点を見出せなかったため、他の新海誠作品の天候表現についても調べるのが今後の課題である。

#### 6.参考文献ならびに参考Webページ

新海誠 『君の名は』 KADOKAWA,2016年

同『秒速5センチメートル』 KADOKAWA,2016年

同『言の葉の庭』 KADOKAWA,2016年

『天気の子』新海誠監督独占インタビュー(ウェザーニューズ, 2019年)

<https://www.huffingtonpost.jp/entry/shinkaimakot217>(最終閲覧日2025年1月9日)